

4. まとめ

講座を通じて学んだこと 今後の課題

報告 草間壽子

「伝統野菜」とは何か

- 「伝統野菜」が生まれた背景
- 定義の比較
- 曖昧さがもつ力

今後の課題

- 伝統野菜の存続の可能性



余呉の山蕪

講座を通じて学んだこと

伝統野菜とは何か

- ・ 「伝統野菜」が生まれた背景
- ・ 各地の「伝統野菜」の定義を比較する
- ・ 定義の曖昧さがもつ力



鹿沼菜

「伝統野菜」登場の背景-戦後の野菜事情

第二次大戦中

1941年 農業生産統制令

農業生産は政府の指定する米ムギなど40余種の作物の栽培に限られた。ほとんどの生産物が政府の決める値段で強制的に買い取られた。

品種の特性を無視した栽培と採種が強行され、それまでに築かれてきた地方品種は壊滅状態に近くなった。

戦後復興

1949年 農業生産統制令撤廃

混乱の極に達していた品種の改良・原種改良が精力的に進められ、1950年代初頭になってほぼ戦前の水準に復帰することができた。



聖護院だいこん

高度経済成長へ

1961年 農業基本法

「三ちゃん農業」が増加。高度経済成長をめざす工業化社会と農業、人口の都市集中と農村、という問題があらわになっていく。

野菜は、だれでもどこでも作れる栽培の容易さ、多収、味にクセがなく万人向きであることが必要になった。品種は、急速に画一化、単純化していった。

1970年代中頃からの新しい動き

- 1974 京都 京都府が**伝統野菜の原種保存**を開始
- 1976 農水省 芦澤正和氏による**地方野菜の実態調査**始まる
- 山形 青葉高著『**北国の野菜風土誌**』発刊
- 1977 京都 京都府が**伝統野菜の種子分譲**を開始
- 1986 大阪 大阪府の野菜遺伝子資源調査および種子の保管・増殖
- 1987 京都 「京の伝統野菜」定義
- 1991 石川 「加賀野菜懇話会」設立
- 1997 石川 金沢市農産物ブランド協会「加賀野菜」認定開始
- 1997 東京 伝統野菜ゆかりの地の神社境内に説明板設置
- 2003 山形 「山形在来作物研究会」発足
- 大阪 「なにわ伝統野菜認証制度」開始

「伝統野菜」という
コトバはこのころ登場？

芦澤氏による地方野菜の
実態調査が本のベース



バブル期、稀少な食べもの
を求める気分と合致

直売所盛況。市場に出まわらない地
方野菜に出合う場になる

2011年、映画
「よみがえりのレシピ」公開

2013年、和食がユネスコ
無形文化遺産に登録

「栽培の歴史」に関する定義の比較



京の伝統野菜 明治以前から



加賀野菜 1945年より前から



なにわ野菜 おおむね100年前から



江戸東京野菜 江戸時代から伝わる⇒江戸野菜
明治から1955年頃まで
⇒東京野菜

多様な「伝統野菜」に共通すること

その土地で、長い間いのちをつないできた

- ・ 長い間をかけてその土地に適応してきた固定種

地域の「生きた文化財」

- ・ 「生きた文化財」は山形大学農学部教授青葉高氏の言葉
- ・ その土地に適応していく長い時間のなかで、地域の風土や人々の嗜好、利用の文化などに関する膨大な情報が蓄積されている
- ・ 食べものとしての存在を超えた物語がある



折戸なす



下仁田ねぎ

定義のあいまいさがもつ力

宗麟南瓜



- 「伝統」というと、昔から続く決まったかたちがあり、動かないもののようにとらえられるが、定義があいまいなことによって、時代や状況に応じて変化する可能性をもつ。この変化の可能性は、伝統を継続していくという面では強靱さにつながる。
- 定義があいまいなので、参入しやすく、各地で「伝統野菜」の掘りおこしが始まり、これまで価値を認められなかった品目・品種が注目されるようになった。
- 「伝統野菜」を、地域の振興、再生の資源として、農業生産者だけでなく、加工業者、レストランほか、さまざまな関係者が参入できる。

今後の課題

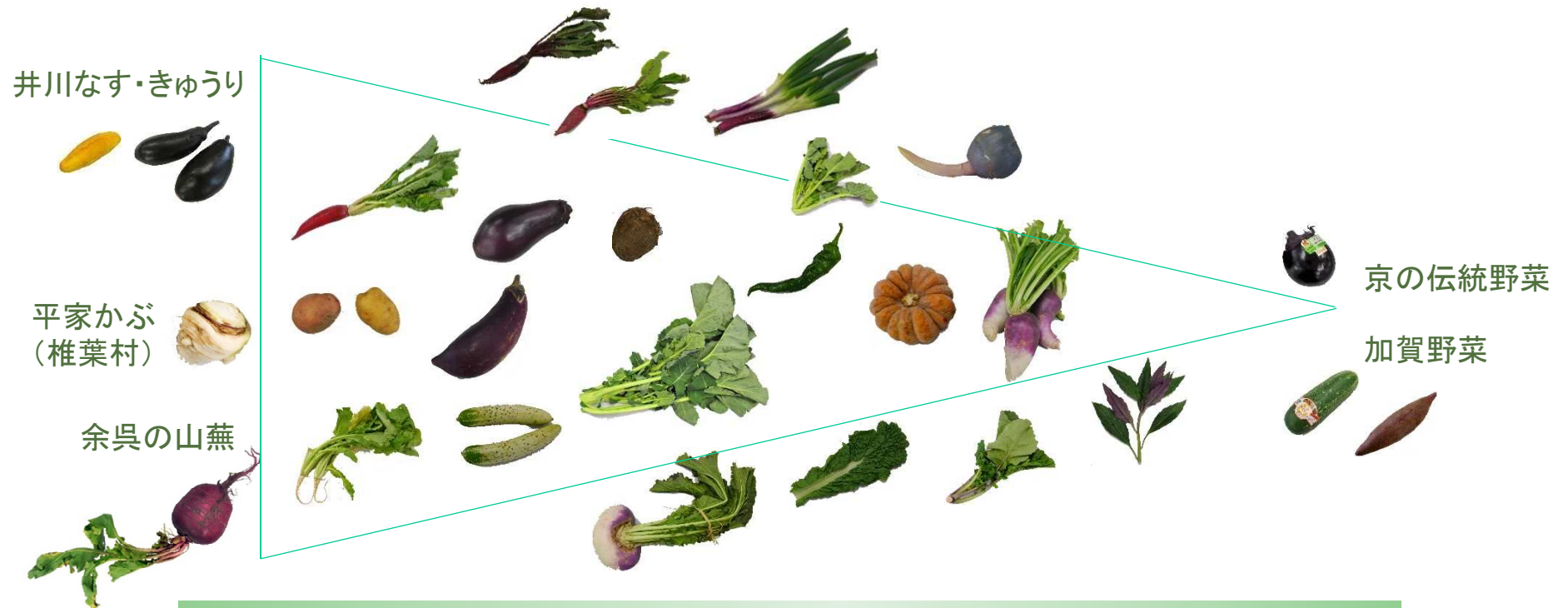
残し、伝えていくには



- ・ 伝統野菜は多種多様⇒市場性による整理
- ・ 伝えていく方法は野菜と地域によって異なる
- ・ 残し、伝えていくひと⇒情報発信のたいせつさ

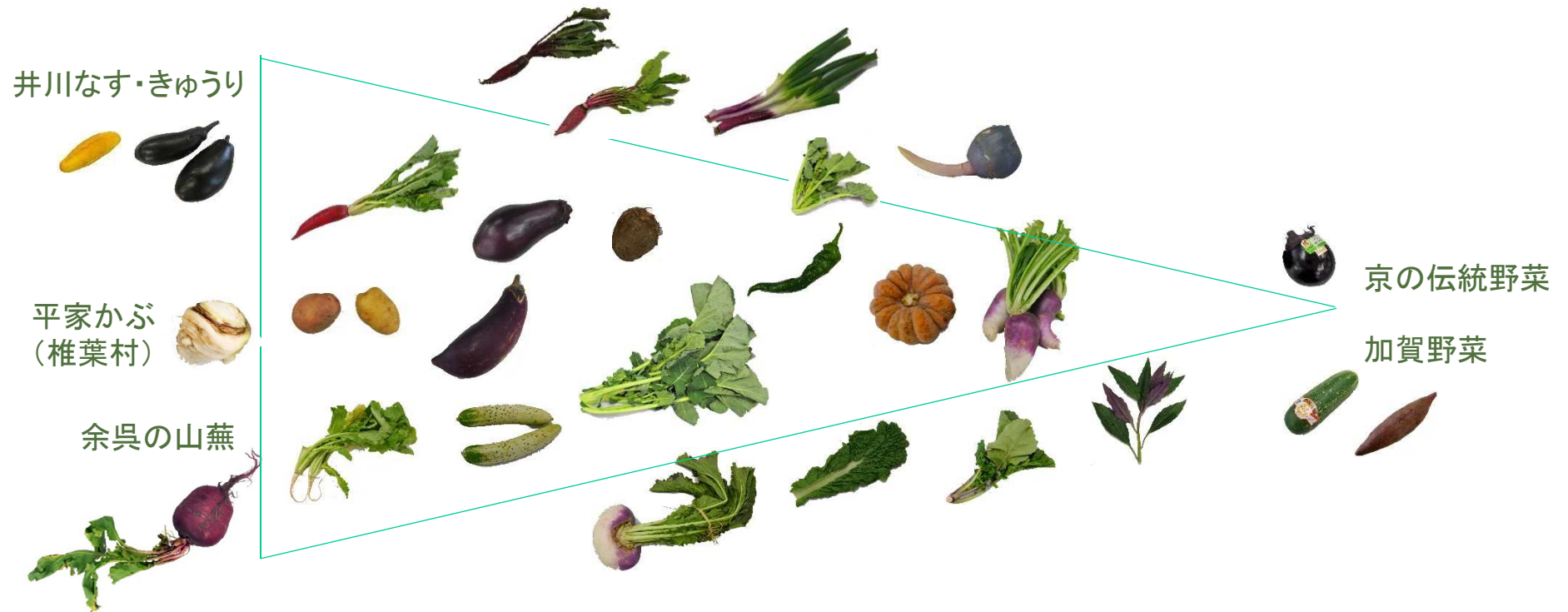
仙台曲がりねぎ

市場性で整理してみると



在来度・在来力	商品度・商品力
不揃い・多様性	揃い
生産者による自家採種	管理されたタネ
長い間つないできたいのち	
地域の文化財・物語	

だれが残し、伝えていくか。



篤農家・自治体・JA

学校

市民・家庭菜園

学び・情報発信

野菜の勉強は一生続きます。



糸巻きだいこん

ご静聴ありがとうございました。